

耳鼻咽喉・頭頸部外科

■ スタッフ

科長 竹内万彦

副科長 小林正佳

医師数 常 勤 9名

非常勤 3名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

特色

診療科の特色・診療対象疾患

三重県内唯一の大学病院として、耳鼻咽喉科、頭頸部外科領域全般の疾患に対応しており、特に頭頸部腫瘍の集学的治療、各種中耳炎と先天性難聴、アレルギー性鼻炎の診断と治療、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害、味覚障害の診断、治療、研究に重点を置いています。また、国立病院機構三重病院と連携して小児の人工内耳診療も行っています。各疾患に対して特殊外来を設置し、それぞれ専門性の高い診療をしています。日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設、日本アレルギー学会認定施設、日本気管食道科学会研修認定施設です。

■ 診療体制と特徴、実績

診療内容の特色と治療実績

2016年の延べ外来患者数は17,372人です。2016年の入院手術件数は463例で、その内訳は耳科手術94例、鼻科手術100例、口腔・咽頭・喉頭腫瘍手術47例、唾液腺手術45例、甲状腺手術65例です。全症例のうち、悪性腫瘍は110例です。耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の

手術に広く対応しています。

また、夜間および休日でも、深頸部膿瘍、急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍、鼻出血、異物などの耳鼻咽喉・頭頸部領域の緊急疾患に対応しています、

頭頸部癌に対しては手術治療の他、放射線治療科の協力を得て機能温存を目指した化学放射線療法も行っています。上顎癌には動注療法+放射線治療を行い、成績も良好です。最近の喉頭癌治療例の疾患特異的5年生存率は88%、中咽頭癌の疾患特異的5年生存率は57.5%（特に側壁癌に関しては69.0%）、下咽頭癌の疾患特異的5年生存率は51%で、切除可能例では68%です。再建手術には有茎皮弁のほか、形成外科の協力を得て血管吻合を伴う遊離組織移植を用いています。食道、縦隔、頭蓋内など他科領域にわたって進展する腫瘍に対しては、消化器外科、呼吸器外科、脳神経外科等と合同で手術をしています。

鼻副鼻腔疾患のうち、慢性副鼻腔炎の手術は内視鏡下鼻内手術で行っています。ナビゲーションシステムを活用して安全な手術を行っています。特に指定難病である好酸球性副鼻腔炎の治療には、手術療法と保存的療法を組み合わせることで良好な治療効果が得られるように取り組んでいます。腫瘍性疾患も可能な限り内視鏡手術で施行し、鼻内内視鏡下での頭蓋底切除・再建術や眼窩、翼口蓋窩の切除術も行っています。他科と合同の経鼻的内視鏡手術も多く、脳神経外科とは下垂体腫瘍摘出手術を、眼科とは鼻内からの涙嚢鼻腔吻合術、歯科口腔外科とは歯牙を温存する歯根嚢胞手術を行っています。

アレルギー外来では、アレルギー性鼻炎に対して舌下免疫療法を行っております。

耳科手術症例数は、鼓室形成術62例、アブミ骨手術3例、人工内耳植込術10例、顔面神経減荷術4例です。他施設から中耳真珠腫や両側高度感音難聴等の患者様が紹介受診されます。鼓室形成術における最近の術後聴力成績は、I型で85%、III型で77%、IV型で72%の成功率です。

睡眠時無呼吸症候群に対しては、まず外来で簡易型ポリソムノグラフィでの検査を行っています。さらに精査が必要な場合は、2泊3日の検査入院でポリソムノグラフィ、薬物睡眠検査などを行い、それらの結果に基づいて診断し、経鼻的持続陽圧呼吸療法（nCPAP）治療の他、栄養士による体重減量指導、手術、歯科装具などを選択して、発症原因に応じた治療を行っています。nCPAP治療のコンプライアンスは89%と良好です。

めまい疾患に対しては、温度刺激検査、前庭誘発筋電位検査（VEMP）、重心動揺検査などを行い、めまい全般の診療を行っています。難治性メニエール病に対しては、入院での手術療法を行っています。

聴覚外来では、突発性難聴や高度感音難聴などの診療を行い、人工内耳手術や中耳手術の適応の決定も行っています。

補聴器外来では、適切な補聴器装用のために、補聴器適合検査を行っています。

嗅覚・味覚障害に対しては、全国でも有数の専門外来を設置して診療しています。三重県の他、

愛知県、岐阜県の東海地方、また京都府、大阪府など関西地区や関東地区、九州からも受診されています。保存的治療のほかに、副鼻腔炎や鼻腔形態が原因の例に対しては手術治療も施行しています。改善率は副鼻腔炎による嗅覚障害で81%、感冒後嗅覚障害で83%と良好です。

嚥下障害に対しては、言語聴覚士とともに嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査で機能評価および診断を行っています。また重症誤嚥に対して、これまでに22例の誤嚥防止手術の実績があります。

音声外来では、発声障害や嗄声の診断と治療を行っています。音声リハビリテーションや入院による音声改善手術も行っています。

医療設備 MRI、CT、PET-CT、核医学、超音波、各種内視鏡、耳用顕微鏡、各種レーザー、マイクロデブリッガー、ナビゲーションシステム、電子スコープ（NBIシステムあり）、聴力検査機器、インピーダンス検査機器、聴性脳幹反応検査機器、耳音響放射検査機器、耳管検査機器、各種平衡機能検査機器、顔面神経検査機器、基準嗅力検査機器、味覚検査機器、鼻腔通気度検査機器、アコースティックライノメーター、音響分析装置などを設置しています。検査機器は、病院の電子カルテシステムに有機的に組み込まれ、検査結果を迅速に記録、参照できます。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/jibiinkou/>